
CONTENTS

創刊にあたって

1. 理事長からのご挨拶
2. 理事および会員の紹介

4月および5月の行事予定

1. 理事会
2. 機構セミナーおよびプロジェクト研究会
3. 社員総会

国内の動き

1. B-DASH 技術導入ガイドライン
2. 肥料取締り制度に係わる意見交換会
3. 下水道由来肥料の利活用マニュアル
4. リン資源リサイクル推進協議会

リンをめぐる世界のレポートから

1. 持続可能な食料生産への関心の高まり
2. 欧州肥料工業会がめざすもの

事務局だより

原稿ご投稿のお願い



東京日本橋の桜（橋本光史撮影）

創刊にあたって

理事長からのご挨拶

「地球の限界」や国連の持続的開発目標に見ますように、いま世界は持続可能な社会の実現に向けて動き強めています。持続可能な社会の実現には、枯渇する地下資源への過度な依存を断ち切るため、地下資源はできるだけ掘らずに次の世代に残し、どうしても掘らざるをえない場合には、掘り出した資源を地上資源として何度もリサイクルできる社会システムの構築が必要です。

かつて、美しい環境を未来に残すことが、企業の重要な社会貢献の一つとされましたが、これからは「資源にやさしい」生産活動も企業に求められることでしょう。これまでのように「環境にやさしい」だけでは不十分となり、「資源にやさしい」ことが示されてはじめて「地球にやさしい」企業活動と認められることになるかもしれません。

一方、いま世界では発展途上国での地下資源採掘に伴う環境の破壊に加えて、先進国による現地への廃棄物の置き去りも問題とされるようになってきています。日本の企業が原料から製品までのゼロエミッションをいくら謳っても、海外で原料を得る際に環境を破壊したり、現地に廃棄物を置き去りにしていれば、「地球にやさしい」持続的開発とは言えません。「資源は金で買えばよい」と言えた時代が、すでに過去のことになるろうとしていることに、私たち日本人も早く気がつかなければなりません。

これまで資源問題は、おもに経済成長や国際競争力と言った視点から語られてきました。たしかに石油やレアメタルなどは、人間が快適で便利な暮らしをするために重要ですが、これらは必ずしも人類の生存に必要な資源と言うわけではありません。資源問題を、経済効率や利便性といった視点からばかり議論していますと、持続可能な開発とはいずれどこかで矛盾をきたしかねないように思います。

当機構が取組むリンの資源問題は、生命の存在そのものに絶対的に必要な元素の資源問題という点で、他の資源問題とはかなり出発点が違ってきます。生命の存在に絶対的に必要なリンの資源問題では、経済効率や利便性といった視点からの議論だけでは不十分です。当機構ではこれから、「リンのない」日本が国民の生存に絶対的に必要とする量のリンを、持続可能なバリューチェーンのもとで、いかに確保していくかという根源的な問題に取り組んで参ります。会員の皆様におかれましては、ぜひ当機構の事業に御参加頂き、わが国のリンバリューチェーンのイノベーションに向けて御協力を賜りますようお願いを申し上げます。



一般社団法人リン循環産業振興機構
理事長 大竹久夫

平成 31 年 4 月 1 日

理事および会員の紹介

設立時理事（任期は次回社員総会まで）

代表理事（理事長）	大竹久夫	大阪大学名誉教授
副代表理事（副理事長）	早川康之	日本コンクリート工業株式会社 技術顧問
理事	國貞眞司	三國製薬工業株式会社 代表取締役社長
理事（事務局長）	米森重明	早稲田大学リンアトラス研究所招聘研究員
監事	用山徳美	早稲田大学リンアトラス研究所招聘研究員

以下 会員のみのもので、会員の方で会報が必要な方は機構事務 jimu@pido.or.jp までメールをお送り下さい。

4 月および 5 月の行事予定

国内の動き

リンをめぐる世界のレポートから 2019.3.1

1. 持続可能な食料生産への関心の高まり

[The Lancet Commissions, Food in the Anthropocene](#): the EAT-Lancet Commission on healthy diets from sustainable food systems, January 16, 2019 (食に関するランセット委員会, 人新世における食料:持続可能な食料システムからの健康な食事に関する EAT-Lancet 委員会報告).

2. 欧州肥料工業会がめざすもの

The European Fertilizer Industry at the crossroads between nutrition and energy, November 2018 (欧州肥料工業会, 食料供給 2030 年 - 栄養とエネルギー供給の接点に位置する欧州肥料産業).

事務局だより

初めて事務局を紹介させていただきます。事務局長を拝命しております米森でございます。早稲田大学リンアトラス研究所とリン資源リサイクル推進協議会の委員を務めていた関係から、当機構の設立準備を進めて参りました。

現在は東京・日本橋本町(東海道の日本橋から徒歩 10 分弱)のビルにあるシェアオフィスに入居しております。机 2 つの狭いオフィスですが、2 つの応接室と歓談できるロビーを備えております。4 月からはセミナー／プロジェクト研究会の担当者と広報の担当者が加わってくれ、本格的な活動を開始したところです。

事務所に常駐してはおりませんが、近くにおいでの際には事前にご連絡いただき、お立ち寄りいただければと思っております。理事長をサポートしながら、会員皆様のお役に立てる機構にして参りたいと考えておりますので、ご支援をよろしくお願いいたします。

理事 事務局長 米森 重明

原稿ご投稿のお願い

会員の皆様からの会報への記事ご投稿をお待ちしています。リンに多少とも関係のある内容であれば、国内外の動き、業界および学会関連のニュース、技術開発および学術研究などの成果、機構へのご要望などなんでも歓迎致します。ご投稿および会報に関するお問い合わせは、jimu@pido.or.jp までメールをお送り下さい。

会報担当

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 3 丁目 8 番 3 号 東硝ビル 8 階
一般社団法人リン循環産業振興機構 事務局
E-mail : info@pido.or.jp Homepage : <http://www.pido.or.jp>